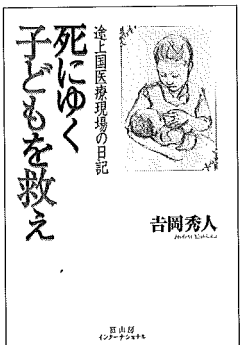


途上国医療現場の日記  
死にゆく子どもを救え

著・吉岡秀人

発行・富山房インターナショナル  
価格・一、三〇〇円（税別）



本書は十五年の間、ミャンマーで医療活動を行ってきた小児外科医・吉岡秀人医師が、二〇〇五年から始めたブログに加筆、編集を加えたもの。手術を施す清潔な環境や最低限の医療設備も整っていない現地で、患者に向かう真摯な姿が描かれている。

現地では医療の恩恵を受けられるのは、握りの富裕層だけだ。吉岡医師は貧しい人々からは医療費を取らず、収入は設備や薬代などにあてて無給で働いている。今まで医師にかかれずに、怪我の後遺症、病気の障害で苦しんでいた子どもたちが、吉岡医師の手で治療を施され笑顔を取り戻すくだ

りは、読者の胸を打つ。

吉岡医師がミャンマーを選んだのは、恩返しという。第二次世界大戦で、多くの日本兵が飢えて死にかけた時、現地の人々は彼らに手を差し伸べてくれた。同胞とはいえ、縁戚も縁もない人々が受けた恩の恩返しという発想自体に、一途な正義感を感じる。

三歳の女兒を治療した項の中に、次のように記述がある。

「この子は将来、誰に治してもらったかも分からず、私たちも感謝されず、それがとてもいい。(中略) たとえどんないいことをしても感謝されない、そんなことも期待しない。ただ自分の心が、正しいと信じることだからやる。そんな生き方がいい」

本書は信念を持って自分のやるべきことを尽くせば、崇高な境地に到達できることを教えてくれる。

◆富山房インターナショナル

電話 〇三三三二九一―二五七八

ミャンマーに渡り無償で人々に医療を尽くす小児外科医の記録